

令和6年度実施

中 央 区

地域活性化事業交付金

事 業 ま と め 誌



相模原市 中央区役所

目 次



「地域活性化事業交付金」について	1
------------------	---

小山地区

・小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト	2
・不登校児童生徒のためのスポーツサポート（スポサポ）事業	4
・小山地域の人と人をつなげるプロジェクト	6

清新地区

・みなはしわんわんパトロール	8
・子育て世代応援事業プロジェクト	10
・清新ごみ分別マナーアップ事業 ～自分のまちから美しく～	12
・清新ふれあいフェスタ	14

中央地区

・中央地区防災ガイド作成事業	16
・中央地区防災フェスタ	18
・子育てマップ作成事業	20

星が丘地区

・やさしさいっぱい星が丘情報発信プロジェクト	22
・すずかけのき再生プロジェクト	24
・自治会回覧板のDX化	26

光が丘地区

・交通安全教室「スケアードストレート」	28
・光が丘防災フェス	30

目 次



大野北地区

- ・ 宇宙・ヨガ＝アート＆夏の星を観る会 3 2
- ・ 大野北子育て応援プロジェクト 3 4

田名地区

- ・ 田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ応援事業 3 6

上溝地区

- ・ 上溝さくら公園イルミネーション事業 3 8
- ・ 高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業 4 0

「地域活性化事業交付金」について

□地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

□対象事業

- ・地域の防災・防犯に関する事業
- ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- ・地域福祉の増進に関する事業
- ・産業や観光の振興に関する事業
- ・環境の保護・保全に関する事業
- ・青少年の健全育成に関する事業
- ・地域の文化・伝統の振興に関する事業
- ・生涯学習に関する事業
- ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- ・区が推進する重点事業
- ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

□優先的な交付対象事業

- ・自治会への加入促進
- ・地域における公共的な活動の担い手育成
- ・公共的な活動への参加者増加
- ・地域の公共的な活動団体間の連携強化
- ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決

□交付対象とならない事業

- ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。
- ・第三者への事業促進を求める事業
- ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業

□交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体。申請にあたり、事前に事業を実施する地区のまちづくりセンターの相談が必要。

□当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末までとする。また、同一の事業に継続して交付する場合は、3年を限度とする。

□交付金の対象経費（交付率は10分の10以内）

- ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
- ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ・事業を行う上で必要な委託費等
- ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ・講演会等の講師に対する報償費
- ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）
- ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

※備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内。

小山地区「小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト」

1年目

小山中ハロフェス盛り上げ隊

1 背景と目的

昨今では近所付き合いや人間関係の希薄化、コロナ禍も相まって地域のおまつりやイベント等も中止や縮小傾向にあり、地域の人々の関わりの方が少なくなっている。これは、安全・安心や防災の分野でも負の要因となっており、人と人とのつながりの大切さをあらためて共通認識する必要がある。

こうした課題を解決するため、小山中学校において実施してるハロフェス（あいさつ運動）を校内外に広げ、地域の方も巻き込んで実施することより、世代間交流を促すことや住民同士の絆を深めるなど、地域活動の礎となるソフト面の充実を図るとともに、ハロフェスをさらに活気づける啓発物品（のぼり旗等）を製作し、ハロフェスをアピールし、参加者の増員をめざすことを目的とする。

2 内容

- ・ハロフェスを実施する際の啓発物品（のぼり旗、バルーンアーチ、おにやまくん等）の作成。

総事業費：100,307円	うち交付金額：100,000円
---------------	-----------------

3 成果と今後の展望

3年前から始めたハロフェスを継続していくことで、徐々に学校内にあいさつ運動が浸透し、生徒が積極的に興味を示し参加するようになった。

また、新たな啓発物品等を活用してハロフェス自体をバージョンアップさせることで、笑顔であいさつをする生徒も増え、学校内が活気付いたとともに、実際に地域の方からも生徒がしっかりあいさつを返すようになったとの報告をいただいた。

今後は、ハロフェスの開催頻度をあげ、地域の人と一緒に取り組める活動にするため、まずは、小山地区自治会連合会が開催する爽涼会や、小山公民館主催の地区運動会においてハロフェスをアピールし、地域全体に活動を広めていきたい。



ハロフェス

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
随時	小山中学校	約15人	小山中学校生徒との打ち合わせ （のぼり旗、デザイン、啓発方法等）
3月	小山中学校	計30人	ハロフェス（計2回開催）
3月	小山小学校	9人	ハロフェス
3月	向陽小学校	10人	ハロフェス

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名； 小山地区ハロフェス（あいさつ運動）プロジェクト					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	近所付き合いや人間関係の希薄化、コロナ禍も相まって地域のおまつりやイベント等も中止や縮小傾向にあり、地域の人々の関わり場の少なくなっている中、小山中学校内でハロフェスを開催し、あいさつを習慣づける取組を行っている。また、ハロフェスを校内外へも徐々に展開していくことで、小山地区内全体が活気づきかけになる。これは安全・安心なまちづくりや、災害時の助け合いに繋がるため、第2条第2項の視点を取り入れた事業であったといえる。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	今年度においては、ハロフェスを盛り上げるための啓発物品を購入した。その結果笑顔であいさつをする生徒も増え、ハロフェスをアピールすることができた。 また、支出についても、事業に必要な消耗品を購入しており過剰な支出は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	本事業は構成団体の他、小山中学校の生徒も含めて、企画や事業を実施されている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	今年度においては啓発物品を購入しハロフェスを実施したことで、事業をアピールできた。 次年度以降においては、さらなる啓発物品の購入や地域の諸団体との連携も考えているため、小山地域全体に段々と「笑顔であいさつする」ことが広がっていくことを期待する。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	小山中学校全体にハロフェスをアピールをできた。また、小山小学校、向陽小学校でも実施したことで地域の活性化の一助になったと考えられる。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業といえる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
			総合評価（A・B・C） B		
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

小山地区「不登校児童生徒のためのスポーツサポート（スポサポ）事業」

1 年 目

NPO法人 ジョガボーラ

1 背景と目的

市内全体においても不登校の児童生徒数は年々増えており、市内の中学生で占める割合は全体の7%にのぼっている。また、各民間団体による無料の学習支援教室等は増えてきているが運動等の体を動かせる施設が少ないという課題がある。体を動かすことは、相手や自分の心や体を大切に思い長きにわたり自身の健康を保つという点においても、非常に大切である。

その様な中で、この「スポーツのまち・小山」において、地区内にできた新たなスポーツ施設を拠点として、不登校児童生徒に対して、心も身体も安心して運動できるような居場所を作ること、心身の健康の促進と、社会への信頼につながる意欲を持たせるサポートをすることを目的とする。

2 内容

- ・相模原スポーツ・レクリエーションパークにおいて、サッカーやボール遊びを通したグループ活動を実施する。
- ・同じ境遇の同年代の児童生徒や、大学生等のボランティアとの交流を行う。

総事業費：283,160円

うち交付金額：283,000円

3 成果と今後の展望

運動やその中でのやりとりといった本活動と一緒にすることで、回数を重ねるごとに子どもたちの笑顔や感情、言葉によるやりとりの数が増え、安心して過ごす時間が互いに楽しめる時間への心の変化や行動がみられた。また、本人たちからの希望や意思を伝えるという積極性がでてきていることも感じられた。

準備の段階から、地域の方々と同じような取組や活動を行っている団体等との情報交換や交流が市の公共施設で実施できたことにより、市民同士のつながりによる連帯感が生まれた。

今後は、より様々な子どもたちに参加してもらうために、周知方法や活動方法を検討するとともに、地域の方々や対象となる子どもたちとの関係を深めながら、学校やその他の施設とも連携を取り、問題解決の糸口を見出しながら、子どもたちの成長できる居場所づくり活動を行っていきたい。



スポーツサポート事業

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
12月～3月	相模原 スポーツ・ レクリエーション パーク	各5～9人 (延べ参加者 数約100人)	不登校児等を対象にしたスポーツサポート (全13回)

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名；				不登校児童生徒のための スポーツサポート（スポサポ）事業	
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や 内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	昨今、不登校児童生徒数は増えており、学習支援教室などの学習サポートの施設は増えているが、体を動かせる施設は少ないという課題がある中、当該事業はボール遊びを通じて子どもたちの居場所作りをするなど課題解決の一助となるような事業を実施している。 また、事業実施にあたり地域の各団体でも周知方法についての検討を行った。これは各団体の連携強化にも繋がることであり、第2条第2項の視点を取り入れた事業であったといえる。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や 支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	地区内にある「スポーツ・レクリエーションパーク」において事業を実施することで、個人では利用しないような広々とした施設でグループ活動を実施した他、ボール遊び、スポーツチャンバラ、ドッジビーなどの数種類の遊びを展開し、さまざまな子どもたちが楽しむことができる事業である。 また、支出についても、事業に必要な消耗品を中心に購入し、周知にあたっても地域の諸団体と調整し、当初予算よりも費用を抑えており、過剰な支出は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や 事業の継続性、 発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	本事業は、構成員の他、大学生ボランティアへも協力依頼をし実施された。事業の企画、運営に関しても団体内で完結しており、主体的に実施されたといえる。
			2 事業が主体的に実施されたか。	◎	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や 他の団体へ与える 良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本事業により、地区内の各団体へ課題の共有や、事業の周知方法についても検討を行ったことから、各団体との連携の一歩になったといえる。今後地区内の団体とも協働の上、本事業が実施されることを期待する。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	不登校児童生徒が楽しめるような内容、事業を提供することができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や 独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業といえる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
			総合評価（A・B・C）		
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうする場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		
			B		

小山地区「小山地域の人と人をつなげるプロジェクト」

3年目

小山の地域をつなげる会

1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症が落ち着き、地域の行事や活動が再開され賑わいが回復してきたが、地域の人と人の関わりや交流はまだ従前の状態とは遠い状態である。特に子どもたちを対象とした活動場所や事業の少ないことが子どもたちの体験不足に繋がる恐れが心配される。

こうした課題を解決するため、小山地区内の団体と連携を図りながら、地域内に住む様々な世代が交流する機会を設け、地域の活性化を取り戻すきっかけや、「遊び」、「学び」、「語らい・ふれあい」を中心とした子どもから高齢者までの多世代交流の事業を実施し、地域住民同士のつながりを深め、より安全安心で住みよいまちづくりの一助とすることを目的とする。

2 内容

- ・多世代交流事業、コミュニティスクール（絵手紙教室、歌の集い、昔遊び体験など）
- ・大学生との連携や学習支援等

総事業費：226,893円

うち交付金額：226,000円

3 成果と今後の展望

小山地区青少年健全育成協議会との連携の拡大を図るとともに地域で様々な活動をしている講師を招請して、子どもから高齢者までが集う幅広い交流事業を実施した。また、大学生の企画事業や小学生の学習支援、外国籍の方との交流も行った。

来年度も引き続き、小山地区内の団体と協力・連携を図り、地域住民同士のつながりをさらに深められる事業を実施したい。また、高齢者のみならず、より多くの子どもや大人にも参加してもらえるように周知チラシの配布方法等について再検討したい。



歌って踊ってもりあげよう

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
4月～3月	公民館	計120人	歌のつどい（計8回開催）
6月～3月	公民館	計197人	歌って踊ってもりあげよう（計10回開催/公民館まつり発表）
7月27日	公民館	25人	外国籍の方の日本の遊び体験
7月～8月	公民館	計21人	夏休み小学生学習支援（計2回実施）
8月24日	公民館	計33人	けん玉と駄菓子屋さん
9月28日	公民館	10人（定員）	廃油石鹸づくり
12月21日	公民館	91人	クリスマスコンサート（子ども約15名）
11月～12月	公民館	52人	大学生開催事業支援（計2回開催）
5月～2月	公民館	63人	絵手紙教室（計4回開催/公民館まつり体験子ども15名）
8月、12月	公民館	68人	みんなのお話し会（計2回開催）

事業名： 小山地域の人と人をつなげるプロジェクト

総合評価 (A・B・C)

◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。
○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。
×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合
B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、
又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合
C：×の項目があり、短期間での改善が困難と
見込まれる場合

A

清新地区「みなはしわんわんパトロール」

チームみなはし

1年目

1 背景と目的

南橋本地域周辺では、物流倉庫、マンション、アパートの建設などにより、JR南橋本駅の乗降客、居住人口の増加が見込まれている。一方で、住民の高齢化も進んでおり、地域内での安全・安心を確保するため、高齢者や子どもの見守り、交通安全・防犯に関する取組を強化する必要性を感じていた。

交通事故ポテンシャルの早期把握、不審者の早期発見、居宅やお住まいの方の「ふだんとの違い」などの「気付き」を、事件・事故防止のアクションに結び付けたいが、その為には、「常日頃の行動」をベースにした「気付き」が重要であり、犬を連れての巡回が、その効果を発揮すると考えられる。連絡（報告）内容により、警察、包括、自治会、市所管課等と連携して対応し、安全・安心なまちづくりに寄与することを目的とする。

2 内容

- ①南橋本地域内のペット（犬）保有者に、パトロール隊の結成・加入を呼びかける。
- ②パトロールの趣旨を理解してもらい「気付き」があった場合の連絡ルートを明示する。
- ③事業の趣旨を広める為に、犬の「リード」に事業名の表示する。
- ④隊員（犬）の顔写真と名前を自治会ホームページに掲載し、士気高揚を図る。
- ⑤適切な頻度で報告会を開催し、隊員（飼い主）間の親睦を深めると共に、「気付き」の共有を図る

総事業費：36,382円

うち交付金額：34,000円

3 成果と今後の展望

地域内での安全・安心を確保するため、高齢者や子どもの見守り、交通安全・防犯に関する取組を強化する必要性を感じていた。当該事業を実施することにより、地域内の安全・安心に係る意識の向上が図られた。

隊員の募集は継続していきたい。また、隊員（犬）数20名を目指して活動を行い、目標が達成された時期には警察署など関係部署との情報交換会を企画したい。



犬員1号
なまえ：キララ
犬種等：シュナイザー（黒・白・10歳）
住まい：南橋本
特徴等：性格素直（子どもはちょっと苦手）
見てね：



犬員2号
なまえ：オージロウ
犬種等：ミニチュアダックスフンド（黒・4歳）
住まい：南橋本
特徴等：カットが他のスムース、ロングとは違うよ
見てね：

登録された隊員（犬）一例
～南橋本自治会HPより～

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
5月15日	20人	清新地区まちづくり会議にて事業の提案を実施
6月1日	7頭	自治会だより、掲示板への掲示にてパトロール隊員の募集を開始した。（令和7年3月までの応募実績は7頭）
3月1日		地域内でのボヤ騒ぎ発生の報告と共に、わんわんパトロールの拡大をアピール。

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名；				みなはしわんわんパトロール	
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	南橋本地域福祉を考える会にて、事業を提案し、「チームみなはし」として取り組む事が出来た。応募した犬をホームページへの掲載することで、モチベーションを高めることにも繋がっている。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	計画の立案や事業について、主体的に実施された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	複数の団体が協力し、地域資源の有効活用が行われている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	初めての試みとなったが、参加者の応募もあり事業が実施された。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	複数の団体が協力し、地域の安全・安心に取り組んでいる。また、自治会の掲示板だけでなく、ホームページでの情報発信も行われている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B		
			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

清新地区「子育て世代応援事業プロジェクト」

Kids Fine

2年目

1 背景と目的

核家族化が進む地域の中で、子育てに悩みを抱えている方が孤立しないための場所を提供し、支援を行うための拠点を置き活動をスタートした。

具体的には、こどもセンターなどにも足を運べない孤立しがちな親子に、寄り添って相談できる場所が少ないことから、医療機関や行政の子育て相談窓口の役割を補完し、より暮らしやすく、住みやすい地域となるように、そして、清新地区における子育て世代の方が孤立せず笑顔で過ごせるために、リラックスできる空間の中で、交流する場の提供を目的とする。また、2年目の事業展開のため、自治会や地域団体とも更に連携を深め、協力体制を構築する。

2 内容

- ①子どもや子育て家庭等のニーズに応じた育児相談
子どもや子育て家庭が抱える様々な場面での悩み等に気軽に相談する場所並びに必要な方に福祉サービスや行政につなげていける案内所の役割
- ②育児不安の軽減のための保護者同士の情報交換の場の確保
孤立することなく楽しんで子育てができるよう、保護者同士で気軽に集い育児の悩みや不安を共有・共感できる情報交換の場
- ③子どもの遊び場&居場所の確保
乳幼児期の親子の遊び場の充実を図り、保育経験を活かしたおうち時間のあそびの提供

総事業費：309,927円

うち交付金額：290,000円

3 成果と今後の展望

子育てに悩みを抱えている方が孤立しないための場づくりという、当初の目的が達成されつつあるとともに、相乗的に子育てに関連する企業との連携なども行われるようになってきている。

また、地域の関連団体とも信頼関係が構築され、事業も継続的に行われている。今後は障害者の社会参加の分野にも応援活動を広げていきたい。



子育て交流会の様子 ～HPより～

(参考) 実施経過

実施日	参加人数	内 容
4月6、7日	850人	相模原市民桜まつり参加（ワークショップ&お店）
5月25日	150人	げんきマルシェ（淵野辺公園）自由遊び場運営
8月17日	10人	出張KidsFine（B型移行支援和が家カフェ） バスボム・手形足形・ハンドマッサージ 夏休み高校生ボランティア受け入れ（市民サポート）
10月6日	80人	市民フェスタワークショップ・活動周知イベント ・ステージダンス♪しなこワールド他2曲
12月10日	15人	親子クリスマス会（得意持ち寄りの会）

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名：子育て世代応援事業プロジェクト					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	◎	地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境作りに資することができている。積極的に地域と関わることで、清新地区全体の活性化にもつなげることができた。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	本事業は地域の子育て世代が孤立することなく子育てを楽しめる環境作りに資する事を目的としており、事業内容は妥当であった。支出についても、講師謝礼や材料費などに使われ、過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	事業は継続的に実施されており、構成団体員や講師など多様な人材によって成り立っていた。運営も含めて主体的に行われており、自己資金の確保にも努めている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	◎	本事業により、子育て世代のニーズを把握できたことから、清新地区内の関係諸団体にも良い波及効果を与える事業になったといえる。また、同類事業を展開する地区社協の役員などに運営のアドバイスをいただいたことは、他団体との連携強化に資しお互いに良い波及効果が得られたものとなった。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	限られた担い手の中でも無事に開催することができた。参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本事業は、中央区基本計画の重点的な取組のうち、「子どもの健全な育成環境の充実」及び「多様な人々によるまちづくり」に該当する事業といえる。また、外部講師を招くことや、自治会と交流を行うなど、地域資源を生かした事業であった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
総合評価（A・B・C）					
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		
A					

清新地区「清新ごみ分別マナーアップ事業 ～自分のまちから美しく～」

2年目

清新地区まちづくり会議環境整備班

1 背景と目的

令和5年度における清新地区まちづくり会議において、「ごみの分別をあらためて周知する必要がある」、「曜日に関係なくごみを出している」等の地域の環境整備に係る課題が示された。その課題解決に資するため、「ごみと資源の日程・出し方」啓発シートの作成を行い、清新地区の全世帯に配布した。

令和6年度は地区内における現状の「ごみ・資源集積場所」の利用状況を鑑み、環境向上に資する啓発物を製作・配布し、さらなる環境整備の促進を図った。

2 内容

清新地区のごみ・資源集積場所に「ごみの集積場所をきれいに」を分かりやすく示した啓発物（ポスター等）を配布し、地区住民のごみの出し方のマナー意識の向上を図るとともに、SDGsの普及啓発を行う。

総事業費：400,880円

うち交付金額：400,000円

3 成果と今後の展望

まちづくり会議で議論した課題解決のために、まちづくり会議委員が主体的に話し合って「ごみ・資源集積場所」をきれいに使うための啓発物の作成が行われ、地域の環境づくりに資することになった。この話し合いの過程は地域内の現状の“ごみ出し”にかかる課題を洗い出し、今後の更なる対策等の話にも及び、生活環境に欠かせないテーマであることをあらためて共通認識することができた。

来年度も引き続き、清新地区内の環境整備について話し合いを続けていきたい。



ごみネットに掲示された啓発物

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
6月19日	14人	目的の共有と方向性の決定
7月17日	18人	清新地区内の環境整備について話し合い
9月18日	19人	啓発物作成について発議・了承され、役員会によるデザイン等の精査開始
11月20日	16人	「ごみ・資源集積場所をきれいに」をテーマにした啓発物のデザインについて話し合い
2月19日	15人	成果物について、まちづくり会議にて報告

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名；				清新ごみ分別マナーアップ事業 ～自分のまちから美しく～	
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	清新地区まちづくり会議で地域の課題が抽出され、「ごみ・資源集積場所」をきれいに使うための啓発物作成が行われた。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。デザインと印刷費のみである。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	事業はまちづくり会議を中心に話し合いがされ、チラシのデザイン検討や掲示方法を含めて主体的に実施された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	まちづくり会議を構成する、様々な団体を巻き込みながら、チラシのデザインを作ることができている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	限られた時間の中で無事に納品まで完了することができた。各自治会への配布も早急に行う予定である。※6月現在配布済み
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	清新地区まちづくり会議で話し合った課題に対して、解決策を具体化することができた。市職員との勉強会やデザインについて意見交換を行うことにより、参加委員の清新地区内の環境整備への理解を深めることにも繋がった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

清新地区「清新ふれあいフェスタ」

清新ふれあいフェスタ実行委員会

3年目

1 背景と目的

令和3年度のまちづくり会議において、「担い手不足や子どもたちの居場所づくり」が地域課題として示され、その課題解決に資するため、令和4年度に「清新ふれあいフェスタ」を初開催、令和5年度も開催された。

令和6年度も引き続き、世代を超えて誰でも参加でき、親と子供、高齢者と子どもたち、みんなが交流し楽しめるイベントとして実施し、地域への定着化を図る。

2 内容

開催日時：令和6年10月6日（日）午前10時から午後2時まで

- ①eスポーツとプラレール会場で遊びを体験できる場所を提供。
- ②ふれあい動物園を開設し、多世代が交流できる場所を提供。
- ③橋本台環境事業所によるゴミの分別ゲームを開催。
- ④事業の周知は地域情報紙、自治会掲示板及び回覧板の活用、並びに学校や幼稚園等へのチラシ配布により行った。

総事業費：415,915円

うち交付金額：415,000円

3 成果と今後の展望

令和6年10月6日に、清新小学校にて清新ふれあいフェスタを実施した。当日は子どもから高齢者まで幅広い世代の人々が700人以上が来場した。体育館ではeスポーツ体験とプラレール遊びを実施し、校庭では移動動物園とパズル体験、バルーンアートが催された。

本年度が3年目となり、地域活性化事業交付金の交付期限となったが、清新地区自治会連合会が中心となり、継続開催が予定されている。



移動動物園の様子



プラレール体験の様子

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
7月17日	18人	目的の共有と方向性の決定、具体的な内容の決定 スケジュール管理
9月18日	19人	清新ふれあいフェスタ当日の役割分担
10月6日	700人	清新ふれあいフェスタ開催
11月20日	16人	清新ふれあいフェスタの振り返り

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名： 清新ふれあいフェスタ					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	清新地区まちづくり会議で地域の課題が抽出され、子どもの居場所づくりのために、清新ふれあいフェスタを行った。相模原eスポーツ協会との繋がりや世代間の交流が生まれ、地域の活性化につなげることができた。また、同様に地域の課題とされている環境整備問題へ取り組むため、橋本台環境事業所にごみ分別ゲーム等のブースを出展してもらい、地域住民の環境意識向上に資することもできた。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	◎	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	目的達成のための事業内容であり、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	事業はまちづくり会議を中心に話し合いがされ、当日の運営を含めて主体的に実施された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	◎	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	◎	3年目の試みとなったが、少ない担い手の中でも無事に開催することができた。参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） A		
			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

中央地区「中央地区防災ガイド作成事業」

中央地区まちづくり防災プロジェクト委員会

2年目

1 背景と目的

近年は地震、台風、大雨等の災害が頻発し、防災に対する関心は高まっている。中央地区でも東日本大震災をきっかけに意識が高まり、地域の防災組織や一時避難場所・避難所について知らない人が多いことから平成25年度に中央地区防災ガイドを作成し、配布やイベントでの活用等で啓発を行ってきた。

しかしながら、作成から10年以上が経過したことで内容に齟齬が生じたり、時代に合わなくなってきた。また、令和4年度のまちづくり懇談会では防災をテーマとし、令和5年度には中央地区防災フェスタを実施するなど現在も地区として防災に対する意識は高い。加えて「令和6年 能登半島地震」が発生したことにより、更にその機運が高まっていることから、現在の防災ガイドを改訂し啓発活動を継続していくもの。

2 内容

- 【掲載内容】
- ・ 災害に対する備え
 - ・ 非常時の持ち出し品
 - ・ 中央地区の防災施設、避難場所等を記載したマップ など
- 【発行部数】 15,000部

総事業費：592,330円 うち交付金額：592,000円

3 成果と今後の展望

改訂版の作成であるが、SNS時代にあわせて二次元コードを使用し、常に最新情報が取得できるようになった。災害への備えといった一般的な内容の他に地域の避難場所等の身近な情報を掲載しているため、地域住民が災害に備えて対策したり、実際に災害が起きた時の行動について考える一助となり、住民の防災意識の向上にも貢献できた。

また、他地区から、とても良い内容なのでイベントで配布させてほしい、今後防災ガイドや防災マップ等を作る際の参考にさせてほしいとの依頼もあった。

次年度以降は、地域の講座やイベント等で今回作成した防災ガイドを活用して啓発活動を行う。



中央地区防災ガイド

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
7月4日	中央公民館	17名	内容検討
7月～12月	中央公民館	3名	内容検討、原稿作成
1月9日	中央公民館	18名	内容最終確認
1月31日			防災ガイド完成
2月9日	中央公民館		中央地区防災フェスタでの配布

地域活性化事業交付金評価シート					
		事業名； 中央地区防災ガイド作成事業			
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	近年の頻発する災害により、住民の防災に関する意識が高まっている中で当該事業を実施することで、地域住民の防災意識の向上や知識を深めることにつながることから、課題に則した目的の設定となっている。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	交付金頼みの事業となっていることから、今後また改訂する場合は財源確保の方法について検討する必要がある。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	×	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	SNS時代にあわせて二次元コードを使用し、常に最新情報が取得できるようになったこともあり、他の地区から問合せがあるなど、どの地区でも参考になる内容となっている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	◎	本事業は、重点的な取り組みである「地域防災力の向上」に該当する事業といえる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

中央地区「中央地区防災フェスタ」

中央地区防災フェスタ実行委員会

2年目

1 背景と目的

令和4年度の中央地区まちづくりを考える懇談会にて、中央地区は他地区と比べて災害リスクが少ないため住民の防災意識が低いこと、自治会加入率の低さから災害時の「共助」が十分に機能するか懸念があることが課題として示され、その課題解決のために令和5年度に中央地区防災フェスタを開催した。

令和6年度については5年度から内容を変更し、引き続き誰でも参加できる防災について楽しく学べる機会を設けることで、住民の防災意識の向上を図る。誰でも参加できる防災について楽しく学べる場を設けることで、災害時の備えとなる平時からの住民の防災意識の向上と災害時の共助の大切さを知り減災につなげること、自治会加入促進による地域の防災の担い手の確保を目的とする。

2 内容

開催日時：令和7年2月9日（日） 午前10時～午後1時

開催場所：中央公民館

- ・起震車体験、お年寄りの避難介助等の体験ブース
- ・防災紙芝居の公演、防災講演会
- ・アルファ化米の実食 ほか

総事業費：350,241円

うち交付金額：350,000円

3 成果と今後の展望

2年目の事業となるが、今年は内容を一新して実施し、約400人が来場した。防災講演会や防災紙芝居では災害時の具体的な話を聞くことにより地域住民の防災に関する知識を深めることができ、起震車やお年寄りの避難介助等のブースでは実際に体験することで災害時のイメージがしやすくなり、防災意識の向上につながった。

来年度以降については実施するかも含め検討していく。



起震車体験の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
7月4日	中央公民館	17名	実施計画検討、策定
9月26日	中央公民館	19名	実施計画検討、策定
11月28日	中央公民館	17名	実施計画検討、策定
1月9日	中央公民館	18名	イベント実施前最終打ち合わせ
2月9日	中央公民館	470名	中央地区防災フェスタ実施

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名； 中央地区防災フェスタ					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	令和4年度地区まちづくりを考える懇談会で防災がテーマとなっており、その課題解決に向けた取組の2年目の事業である。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	目的達成のための事業内容であり、過剰な支出は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	補助対象外の金額については関係団体から資金提供を受ける等改善しているものの、大部分は交付金に頼っていることから、引き続き財源の確保について検討すること。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	×	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	2年目の事業となったが、子どもからお年寄りまで楽しみながら、誰もが参加しやすい雰囲気防災に興味を持っていたき、参加者からも喜びの声を聞くことができた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	◎	本事業は、重点的な取り組みである「地域防災力の向上」に該当する事業といえる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

中央地区「子育てマップ作成事業」

子育てマップ作成委員会

3年目

1 背景と目的

中央地区は核家族で子育てをする世帯や転居してくる世帯が多く、保護者が不安なく子育てが出来るよう、身近な場所の子育てに役立つ情報が必要である。

そのため、平成25年度、26年度（改訂版）に地域の子育てに役立つ情報を掲載した子育てマップを作成し、公共施設での配架や保健師等による「こんにちは赤ちゃん事業」等で配布を行ってきた。その後、10年が経過し掲載内容の変化や、様々な情報のデジタル化の動きもあり、改訂版の作成が必要となった。

子育て中の保護者が不安にならないよう、身近な地域の子育てに役立つ生活情報を掲載した子育てマップを作成すると共に、地区社会福祉協議会と連携して三世代交流事業等で活用することで、子育て家庭への支援を行うことを目的とする。

また、持ち運びし易い大きさと作成し、QRコードで常に最新情報が入手出来るように改訂することで、安心して子育てが出来る情報を提供する。

2 内容

- ・掲載内容：表面は子育てに関わる施設や相談先、医療機関の情報を掲載。
裏面は中央地区のマップに写真や案内付きの公園、避難所を掲載。
- ・発行部数：10,000部
- ・各種イベント等での配布・活用、市の子育て家庭訪問事業での活用

総事業費：380,354円

うち交付金額：380,000円

3 成果と今後の展望

マップを目にする子育て中の方の目線に立ち、公園の砂場の有無をマークで表記したり、長く使用できるように二次元コードを使用して病院や子育てサロンの最新情報を取得できるようにしたこと等、細部まで目を配った結果、子育て中の方だけでなく、地区を問わず様々な関係者から好評の声をいただいた。

次年度以降はマップの配布のほか、地区社会福祉協議会と連携を図って地区内のあらゆる場所で子育てサロンの立ち上げを進め、本マップを必要とする方に配布し活用していきたい。



中央地区子育てマップ

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
6月11日	中央公民館	11人	子育てマップ作成委員会第1回会議 役割分担、掲載内容検討
6月19日	中央公民館	11人	子育てマップ作成委員会第2回会議 周知方法検討、役割分担
7月5日	地区内	11人	全公園の写真撮影、砂場、水道設置の現地調査
11月16 ～23日	中央公民館	40人	中央地区っていいなあフェア展示

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名：子育てマップ作成事業					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	人口が多く、保育園・幼稚園・学校が多い地区であり、子育てに関連した情報は地域の多くの人々が必要とするものである。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	目的達成のために必要な支出であり、過剰な支出は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	民生委員会を中心として調査を行ったり、地域団体にも協力を得るなど、主体的に実施されている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	SNS時代にあわせて二次元コードを使用し、常に最新情報が取得できるようにしたこと、地区を問わず様々な関係者から好評を得ている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

星が丘地区 「やさしさいっぱい星が丘情報発信プロジェクト」

星が丘地区情報サイト委員会

1年目

1 背景と目的

令和6年3月に地区自治会連合会と地区社会福祉協議会双方のホームページが使用できなくなったため、新しいホームページの作成が必要になった。

各団体と協力し、星が丘地区の幅広い情報を発信するホームページを作成することにより、地区内の住民が地域に詳しくなり、星が丘地区に愛着を持ってもらうことで、最終的に自治会員や地域の担い手に繋がることを目的とする。

2 内容

- ・星が丘地区自治会連合会、各自治会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、地区交通安全母の会、地区青少年健全育成協議会の団体が共同で使うホームページを開設する。
- ・ホームページ内に電子回覧の登録・解除フォームの機能を付ける。

総事業費：551,100円

うち交付金額：551,000円

3 成果と今後の展望

情報を得たい地域の人にとって、一つのホームページを閲覧するだけで5団体及び自治会の情報を知ることができるようになったため、今までよりも情報収集の利便性が上がった。

役員にとっても会議やイベントのスケジュールがカレンダー形式で掲載されるため、日程が確認しやすくなった。

また、イラストや写真、色合いを柔らかい素材にすることで、親しみやすいホームページになった。

ホームページの完成が予定よりも遅れたため、十分に地域へ周知する時間がなかった。令和7年度は地域情報紙に新しいホームページが出来たことをお知らせし、積極的にホームページを活用していきたい。



「星が丘地区情報サイト」HP

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
5月1日	星が丘公民館	4人	スケジュールの確認 ホームページの打ち合わせ
6月20日	星が丘公民館	3人	ホームページ製作に関する契約の締結
8月～3月	星が丘公民館	延べ41人	打ち合わせ
3月15日	星が丘公民館	14人	ホームページお披露目

地域活性化事業交付金評価シート

事業名； やさしさいっぱい星が丘情報発信プロジェクト

No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	ホームページやGoogleカレンダーの操作マニュアルを独自に作成することで、担当者が変わっても継続的にホームページを運営できる仕組みが整えられている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	星が丘地区内にある5つの団体が連携して1つのホームページを運営しており、多くの団体を巻き込んだ事業になっている。 各団体のイベントや活動内容を積極的に周知することで、イベントの集客率向上及び新たな担い手の確保を期待する。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	セキュリティ対策を講じた上で、ホームページを開設できた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	ホームページ内に地域情報紙や地区別防災カルテを掲載することで、構成団体だけではなく星が丘地区全域に係る情報を発信している。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	

〈各視点の評価〉

◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。

○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。

×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。

総合評価（A・B・C）

B

〈総合評価の基準〉

A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合

B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合

C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合

星が丘地区 「すずかけのき再生プロジェクト」

すずかけのき再生プロジェクトチーム

1年目

1 背景と目的

令和5年度に実施された星が丘公民館の大規模改修工事に伴い、長年星が丘地区の住民に親しまれていたシンボルツリーのスズカケノキが伐採された。伐採されたスズカケノキは大きな樹木で状態も非常に良かったため、シンボルツリーを地域の為に利活用することが望ましいと考えられる。

スズカケノキから知育や木育、世代間交流に繋がるような星が丘地区に還元できる物を作ることで、星が丘地区の歴史を伝える一助としつつ、星が丘地区内の住民同士の交流や学習にも寄与することを目的とする。

2 内容

- 【製作物】羽子板、けん玉、KUMINO（きぐみのつみき）
- ・羽子板とけん玉は星が丘小学校1年生との「昔遊びで多世代交流」の時間で、地域の人々が小学生に昔遊びを教える道具として使用する。
 - ・KUMINO（きぐみのつみき）は高齢者にとっては認知症予防、子どもにとっては知育、木育を目的に地域の事業（すずかけオレンジカフェ、いこいの広場等）で使用する。

総事業費：494,840円

うち交付金額：494,000円

3 成果と今後の展望

「昔遊びで多世代交流」では、星が丘小学校の児童に公民館に植えられていたスズカケノキで羽子板やけん玉が製作されたことを紹介し、木の香りや触感等を感じてもらった。製作された玩具を通じ、子どもから高齢者まで世代を超えて楽しむことができた。初めてけん玉や羽子板で遊ぶ児童もあり、教える側も教わる側もお互いに有意義な時間となった。

高齢者の認知症予防として「すずかけオレンジカフェ」の参加者にKUMINOで遊んでもらった。頭と手先を使うことで、認知症予防に貢献できた。

次年度は、昔遊びで使用する駒の製作及びKUMINOを追加で製作し、遊ぶ機会を増やしていきたい。

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
10月23日	星が丘公民館	6人	打ち合わせ
1月22日	星が丘小学校	144人	昔遊びで多世代交流
2月19日	星が丘公民館	6人	打ち合わせ
2月28日、 3月3日、 3月19日	星が丘公民館	計6人	子どもとKUMINOで遊ぶ（放課後）
3月14日	千代田7丁目 自治会館	4人	千代田いこいの広場でKUMINOで遊ぶ
3月25日	星が丘公民館	47人	すずかけオレンジカフェでKUMINOで遊ぶ



KUMINOでクワガタを組み立てている様子

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名；					すずかけのき再生プロジェクト
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	長年星が丘地区の住民に親しまれていたスズカケノキが、子どもから高齢者まで扱える玩具として生まれ変わること、星が丘地区の歴史を伝える一助になった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	スズカケノキで製作された玩具を積極的に既存事業で取り入れたり、子ども達に声掛けをしKUMINOを手にとってもらう等、主体的に事業が実施されていた。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	玩具を通じて、星が丘地区内の住民同士の交流促進や高齢者の認知症予防等に貢献できた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	スズカケノキという地域資源を生かすことで、星が丘地区独自の事業になった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

星が丘地区「自治会回覧板のDX化」

星が丘地区自治会DX化促進会

2年目

1 背景と目的

星が丘地区では自治会員の減少傾向による役員のなり手不足や、職務過多などが課題になっており、まちづくり会議でも持続可能な団体運営を課題の一つとして取り上げている。

自治会を脱退あるいは加入しない理由の一つとして、「月に数回も回覧板を回すのが億劫」という意見も出ており、若い世代の自治会脱退防止や役員の負担軽減を目的に、電子回覧を実施していく。

2 内容

- ・セキュリティ対策を強化した上で、新たに電子回覧のシステムを制作する。
- ・電子回覧を希望する自治会員にはメールアドレスを登録してもらい、自治会ごとに回覧の内容を電子メールで配信する。電子回覧を希望しない人は、従来通りの方法で回覧物を確認してもらう。

総事業費：449,880円

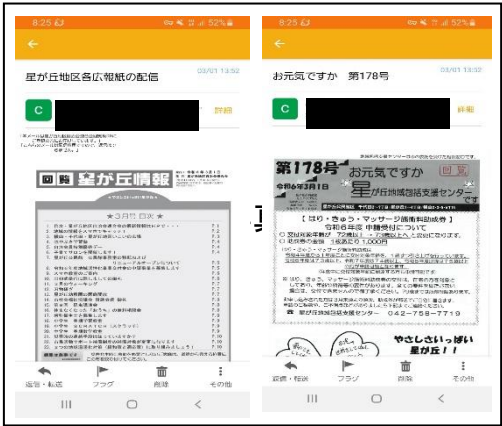
うち交付金額：449,000円

3 成果と今後の展望

セキュリティ強化の対策を行ったうえで電子回覧を再開し、毎月上旬に安定した電子回覧の配信をすることができた。

自治会員からは地域情報紙等の地域の情報を好きな時に確認することができて便利になった、という意見があった。

電子回覧登録フォームの作成が予定よりも遅れたため、令和6年度は満足に電子回覧を周知できなかった。来年度は周知に力を入れ、登録者数を増やしていきたい。



実際に配信された電子回覧

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
5月1日	星が丘公民館	4人	打ち合わせ
6月10日	星が丘公民館	2人	グッドビー株式会社と打ち合わせ・発注
7月1日～15日		2人	入力作業
7月20日		3人	システム動作の確認
8月1日		132人	テスト配信 以降、毎月上旬に配信
8月28日	星が丘公民館	5人	電子回覧登録フォームの打ち合わせ
9月14日	星が丘公民館	14人	自治会長会議で電子回覧の進捗状況を報告
12月17日	星が丘公民館	4人	電子回覧登録・解除フォームの打ち合わせ
3月15日	星が丘公民館	14人	自治会長会議で電子回覧登録者一覧表を配布
			電子回覧新規登録者の受付開始

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名：自治会回覧板のDX化					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	自治会を脱退あるいは加入しない理由の一つとして、「回覧板を回すのが億劫・面倒」という地域の意見を聞く等、地域のニーズにマッチしている。 自治会員の回覧板を回す負担を軽減することで、まちづくり会議の地域の課題にある「持続可能な事業・団体運営」についての取組にも繋がった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	若い世代の自治会脱退防止や役員の負担軽減の為に自治会のDX化を進めていく必要がある。 なお、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	地域情報紙や他団体の広報誌を回覧していることで、様々な活動を周知する機会になった。 自治会員にとっても、時間や場所に縛られずイベント情報を確認出来るようになった。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	課題となったセキュリティ面では、昨年度の反省点を踏まえ対策を講じることができた。それにより、今年度は問題なく配信することができた。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B		
			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

光が丘地区 「交通安全教室（スケアードストレート）」

光が丘地区交通安全事故防止委員会

1年目

1 背景と目的

令和5年から自転車利用者のヘルメット着用が努力義務化されるなど、自転車を利用する人も自覚と責任を持って安全運転に努めなければならない。このような状況の中、地域住民に対して、交通マナーの向上やルールへの周知を目的とした啓発活動を行うことは大変重要なものである。

事故を再現するスケアードストレートを通して、交通ルールへの大切さを改めて認識いただき、地区住民の交通安全意識の向上を目的として交通安全教室を実施する。

2 内容

- 交通安全教室の開催
 - 日時：令和6年12月6日（金）
 - 会場：緑が丘中学校（雨天時は体育館）
 - 内容：スケアードストレート
 - 対象者：光が丘地区住民、緑が丘中学校全生徒

総事業費：325,410円 うち交付金額：325,000円

3 成果と今後の展望

「車と自転車」や「車と人」の事故の状況を実際にスケアードストレートで再現することで、交通ルールを守らないことがどれほど危険であるか実感していただき、地域住民の交通安全意識向上につながったものと考えている。

また、将来、通学等で自転車に乗る機会が増える緑が丘中学校生徒の参加もあり、若い世代にも交通ルールの意識づけをすることができた。

今後も光が丘地区自治会連合会、光が丘交通安全母の会など、地区内の関係団体との連携を行いながら、地区内の交通事故が減少するように、交通安全の啓発活動を継続して行っていきたいと考えている。



交通安全教室
(スケアードストレート)の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
6月～12月	光が丘公民館	計36人	事故防止委員会打ち合わせ（計4回）
7月、11月	緑が丘中学校	計6人	会場である緑が丘中学校との打ち合わせ
12月6日	緑が丘中学校	約350人	交通安全教室（スケアードストレート）の開催

地域活性化事業交付金評価シート					
				事業名：交通安全教室「スケアードストリート」	
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	自治会およびまちづくり会議では、たびたび交通安全に関する議論が行われており、地域課題に則した目的の設定ができています。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	光が丘地区交通安全事故防止委員会が中心となり、会場調整や業者との調整が行われていた。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	事業を行ったことで、地域の交通安全意識の向上に繋がったと考える。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	区別基本計画の「重点的な取組」に合致する事業となっている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

光が丘地区「光が丘防災フェス」

光が丘防災フェス実行委員会

1年目

1 背景と目的

令和6年に入ってから日本では大きな地震が続いており、光が丘地区においても常に大規模災害が発生する危険性があることから、生活するうえで地域住民一人ひとりが「自助」「共助」の意識を常に持つことが大切である。

地域住民が防災に興味を持てるような体験型の「防災フェスティバル」を開催することで、防災意識の向上、住民同士の連携・協力のきっかけづくり、地域防災の新たな担い手の確保に繋げることを目的とする。

2 内容

・光が丘防災フェスの開催

令和6年11月16日（土）：防災講演会（市民防災ラボによる防災講演会）

11月17日（日）：光が丘防災フェス（防災ポーチ制作、消火体験、煙体験、起震車体験、避難所体験コーナー、企業ブース、中央区ブース、食品販売コーナー、記念撮影コーナー）

会場：青葉小学校 校庭および体育館

総事業費：553,046円

うち交付金額：464,000円

3 成果と今後の展望

防災講演会には約200人、体験型イベントの防災フェスには約600人の来場者があり、楽しみながら防災の大切さを伝えることができた。防災フェスの会場には、子どもから大人までが体験しながら防災を学ぶことができるコーナーを多く用意することができ、住民ひとり一人の防災意識の高揚に繋げることができたと考えている。

災害はいつ発生するかわからないため、継続して地域住民による自助・共助の重要性を認識してもらう必要がある。地域としてできる防災を考え、引き続き取り組んでいきたい。



11月16日 防災講演会



11月17日 体験型イベント

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
8月～11月	光が丘公民館	計50人	光が丘防災フェス実行委員会
11月	—	—	自治会、幼稚園、保育園、小中学校へチラシを配布
11月16日	青葉小学校	約200人	光が丘防災フェス（防災講演会）
11月17日	青葉小学校	約600人	光が丘防災フェス（体験型イベント）

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名： 光が丘防災フェス					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	光が丘地区自治会連合会等では、地域防災の重要性や自助・共助の必要性について認識されており、地域課題に則した目的の設定ができています。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	自治会連合会、自主防災隊などの地域団体の連携により会場設営が行われたり、キッチンカーの代替としてイオン橋本店の移動販売車の協力により飲食物が販売されるなど、支出を軽減する対応が取られている。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	◎	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	◎	実行委員長を中心に、ブースや役割ごとに適切な事務分担が行われるなど、円滑な団体運営が行われた。また、自主防災隊や避難所運営協議会など、地域の防災に関連する団体と連携し、専門的な知識を持つ人材からの協力を得られる体制となっている。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	設定した目標は達成されている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	区別基本計画の「重点的な取組」に合致する事業となっている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。				総合評価（A・B・C） A 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合	

大野北地区

「宇宙・ヨガ＝アート&夏の星を観る会」

宇宙・ヨガ＝アート&夏の星を観る会

1年目

1 背景と目的

淵野辺駅のある大野北地区はJAXA相模原キャンパスの玄関口であり、これまでも「銀河」や「宇宙」をキーワードとして、まちづくりが進められてきた。子どもからお年寄りまで交流できるヨガ・アートをミックスさせた宇宙・ヨガにて、星空のもと宇宙との繋がりを感じながら想像を膨らませ心身の健康増進及び健康寿命の延伸や地域力の向上を図ることや星の観望をしながら「宇宙」についての講話を聞いて大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらい、地域愛の醸成を図る。併せて子どもたちにはJAXAや宇宙への興味や関心を持ってもらうことで、将来の宇宙飛行士や宇宙プロジェクトへの参画を目指す大きな夢や希望を膨らます機会とすることを目的として企画したもの。

2 内容

鹿沼公園野球場芝生にて、ヨガ講師による基本作法（由来・考え方・所作等）を学びながら宇宙・ヨガの実践。また、望遠鏡を設置して星空の専門家による講話と星の観望。

総事業費：200,000円 うち交付金額：200,000円

3 成果と今後の展望

星空のもと、星座を形とったヨガのアートを実践することで、大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらえた。観望会では元JAXAの方からの講話を聞くことで、子どもたちに宇宙への興味をもってもらえた。今後も、事業を継続することで、宇宙に対して夢や希望を膨らます機会としていきたい。



宇宙・ヨガの実践や星空観望の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
8月3日	鹿沼公園 野球場芝生	約70人	ヨガの基本（由来・考え方・所作等）を学ぶ。望遠鏡を設置して星空の専門家による講話と星の観望。

地域活性化事業交付金評価シート					
		事業名；宇宙・ヨガ＝アート&夏の星を観る会			
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	大野北地区の特色である宇宙や銀河を身近に感じてもらい、地域の特色に興味を持つきっかけづくりとなり、地域への愛着を深めるために寄与する本事業は、参加者同士の交流を図れるなど、地域のニーズにマッチした事業であり、解決すべき地域課題は明確であった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	開催に向けた出演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	大野北銀河まつりと同時開催により事前の啓発や大野北地区の特色である銀河カラーを前面に出すことで他の団体や地域住民への波及効果が生まれたと思う。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	地域住民が地域の特色に興味を持つきっかけとなり、地域への愛着を醸成できた。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	大野北地区の特色である宇宙や銀河について、新たな取組みとして、子どもからお年寄りまで交流できるヨガ・アートをミックスさせた宇宙・ヨガにて、心身の健康増進や健康寿命及び地域力の向上を図られたこと及び望遠鏡での星空観察にとどまらず、専門家の講演をとおして、自分たちの住む地域の特色に興味をもち、地域愛の醸成を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」（様々な主体同士が連携・協働し、強みを生かすための取組の推進）に沿った内容であった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
			総合評価（A・B・C）		
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価の基準 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合 B		

大野北地区 「大野北子育て応援プロジェクト」

2年目

相模原おやこ劇場でいらブロック

1 背景と目的

大野北地区では、子育て世代の転入が増加する一方、子育てで不安を抱える孤立したケースが見受けられることから、子育て世代の繋がりや居場所づくりへの支援の必要性を強く感じたため「人形劇公演とふれあい交流」を開催し、多くの親子に安らぎを感じてもらいながら、子育ての悩み事などを通じて参加者同士の交流を促進し、地域の輪を広げるため企画したものの。

2 内容

人形劇団プークによる0歳児から3歳児のための、はじめてのおしばい「あら、どこだ！」の公演及び人形とのふれあい。

総事業費：450,000円 うち交付金額：450,000円

3 成果と今後の展望

本事業を通じて、舞台に釘付けになっている子の姿に喜びを分かち合う親子の様子や人形とのふれあい、子育て情報の共有にて参加者同士の交流が生まれ「参加して良かった」「新たな交流が広がった」など多くの喜びの声をいただいた。また、自治会館等で実施することで、地域への関心や自治会のPR活動も共有することが出来るため、子育て世代と地域が繋がる起点が出来たと思う。引き続き、子育ての居場所づくりに向けて、今後も地域に密着した形で実施したい。



おしばい鑑賞や人形とのふれあいの様子

(参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
2月4日	嶽之内自治会館	39人	0～3歳児のための、はじめてのおしばい 劇団プークによる「あらどこだ」公演 併せて地域の子育て支援情報や自治会活動等の紹介及び加入のご案内
2月5日	上矢部自治会館	41人	0～3歳児のための、はじめてのおしばい 劇団プークによる「あらどこだ」公演 併せて地域の子育て支援情報や自治会活動等の紹介及び加入のご案内
2月17日	大野北公民館	129人	0～3歳児のための、はじめてのおしばい 劇団プークによる「あらどこだ」2部公演 併せて地域の子育て支援情報や自治会活動等の紹介及び加入のご案内

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名；				大野北子育て応援プロジェクト	
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	大野北地区における子育て世代の転入において孤立した子育てや不安を抱えるケースが見受けられることから、子育て世代の繋がりや居場所づくりの必要性など、人形劇とのふれあいを通じて交流が出来る本事業は地域のニーズにマッチした事業であり、孤立した子育ての不安や居場所づくり等、解決すべき地域課題は明確であった。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	◎	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	開催に向けた演者との交渉や会場の手配、チラシ配布など広報を申請団体が主体的に実施されていた。 当日の運営も申請団体により自主的に進行された。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	地域の子育て支援をしている団体や実施事業を紹介、また、子育て情報冊子や自治会加入チラシを配布することで、地域で活動している団体との連携が見込まれる。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	人形劇とのふれあいを通じて親子で芸術に興味を持つきっかけとなり、参加している子育て世代の繋がりや子どもの健全育成に寄与している。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	親子で生の人形劇に触れることで心地よさや感動を肌で感じてもらいながら親子同士の交流促進を深め、子育ての健全育成の向上を図ることを目的とした事業であり、区別基本計画の「取組の方向」（協働を知り、学ぶための取組の充実）に沿った内容であった。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。				総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合	

田名地区「田名地区三菱重工相模原ダイナボアーズ応援事業」

田名地区ダイナボアーズサポーターズ

2年目

1 背景と目的

田名地区では、自治会加入率の低下によって、老人会や社会福祉協議会等の地域活動団体の活動にも影響が生じてしまうことを懸念し、まちづくり会議においても「自治会加入率の低下をまち全体の課題」として取り上げているところである。

そこで、田名地区内に拠点がある三菱重工相模原ダイナボアーズを田名地区が一体となって応援することで、地域コミュニティの強化と地域に対する誇り及び愛着の醸成につなげ、自治会加入の促進と退会防止に資することを目的とする。

2 内容

- ・啓発事業（自治会館や公共施設、協力店舗などにのぼり旗や横断幕を掲示。
地区自治会連合会HP（たななび）や地域情報紙、SNSでの情報発信。）
- ・交流事業（田名北小学校児童（6年生）を主体とした応援活動を企画・立案し、田名公民館での「田名子どもまつり」へ出展。ホームゲーム観戦バスツアーの実施。
地域活動交流として、選手やスタッフを地区自治会連合会や単位自治会等の行事に派遣してもらい、地域住民と交流を図る。）

総事業費：1,476,300円 うち交付金額：950,000円

3 成果と今後の展望

三菱重工相模原ダイナボアーズとの「地域共創パートナーシップ契約」を更新し、引き続き田名地区自治会連合会の取組をPRすることができた。

自治会からの退会者や未加入者から加入メリットを問われることも多い状況で、地域資源である三菱重工相模原ダイナボアーズと連携事業が引き続き行えたことは自治会取組のPRとなった。

地域住民の中でラグビーを通じた共通の話題が生まれたり、顔見知りが増えりするなどコミュニティの輪が広がっている。

今後は、当該事業をいかに継続し、発展させていくかが課題であり、担い手の確保も含めた検討が必要である。



ダイナボアーズ応援ルームでの交流
(2024.12.8)の様子

（参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内 容
10月～3月			・打合せ ・田名北小学校児童による応援活動の企画・立案 ・のぼり旗・横断幕の設置 （自治会館や公共施設、協力店舗など）
10月1日			地域共創パートナーシップ契約更新 （期間：令和6年10月1日～令和7年9月30日）
12月8日			ダイナボアーズ応援ルームの開設 （田名公民館「田名子どもまつり」に出展）
12月22日	相模原ギオンスタジアム	65名	ダイナボアーズ応援バスツアー第1弾
2月1日	相模原ギオンスタジアム	48名	ダイナボアーズ応援バスツアー第2弾
3月1日	秩父宮ラグビー場	57名	ダイナボアーズ応援バスツアー第3弾

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名； 田名地区三菱重工相模原ダイナポアーズ応援事業					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	地域課題でもある「自治会加入率の低下」に対して、地域資源とも呼べる「三菱重工相模原ダイナポアーズの応援」を解決策に捉えており、事業の目的とその内容は明確である。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施がなされており、支出についても過剰な点は見られない。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	事業実施にあたって、各会員の役割を分担して行う体制が整っていた。 また、応援バスツアー参加者へ本事業の取組に対する呼び掛けを行うなどして賛同者を増やす努力を行っていた。 今後、本事業効果を踏まえながら、地区自治会連合会の自主財源での予算化及び担い手の確保に向けて取り組まれていくことに期待したい。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	田名北小学校児童（6年生）を主体とした応援活動を企画・立案し、公民館事業との連携を行った。 また、引き続き取組に対する周知を行い、応援バスツアーへの参加、ポスター掲示等による地域の一体感を醸成することが出来た。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	数値目標はないが、三菱重工相模原ダイナポアーズの話題をきっかけに、地域住民の間で交流が生まれていることを確認した。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	区別基本計画の取組みの方向Ⅳ－3「誰もが桜やJAXA、大学など地域の魅力を語れるよう取り組みます」の取組に該当する事業で、地域資源である三菱重工相模原ダイナポアーズを生かして、地域住民の交流の機会が創出された。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B		
			〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

上溝地区 「上溝さくら公園イルミネーション事業」

上咲実行委員会

2年目

1 背景と目的

さくら公園は、園内に39種の桜が植栽され、秋から春にかけて様々な桜の開花を長く楽しむことができる。その魅力を多くの地域住民知ってもらう機会として、これまで、春には「さくらまつり」、秋には「秋祭り」を開催。冬季においても、地域住民のコミュニケーションの機会となるような新たな魅力づくり事業を進める。

2 内容

- 上溝南高等学校に加え、今年度より新たに上溝高等学校も参画。上溝高等学校の高校生考案のチラシ・ポスターを作成。
- 12月14日開催の点灯式には、公園内に模擬店が多数出店し、地域関係団体と地元高校生が協力し運営。そのほか、上溝高等学校吹奏楽部の演奏や上溝南高等学校ダンス部のパフォーマンス披露もあり、地域の若い世代がイベントを盛り上げた。
- イルミネーションは、12月14日から翌年1月11日までの期間、毎日点灯実施。

総事業費：994,657円

うち交付金額：827,000円

3 成果と今後の展望

- 昨年度に引き続き、地域と若者（高校生）とが事業に向けて連携できた。今年度は上溝南高等学校に加え、新たに上溝高等学校も参加し、地域を担う若い世代の育成に繋がった。
- 春には「さくらまつり」、秋には「秋祭り」、冬には「上溝イルミネーション」を上溝さくら公園で開催する流れも2年目となり、地域住民のコミュニケーションの機会として徐々に地域に認知され定着してきている。
- 上溝さくら公園内だけでなく、商店街の協力を得て、上溝商店街あたりまでイルミネーション装飾の範囲を拡大したい。



上溝さくら公園 イルミネーション

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
10月10日	8人	会議①（事業内容検討）
10月23日	6人	会議②（事業内容検討）
11月11日	6人	会議③（事業内容検討）
12月14日	約500人	上溝イルミネーションオープニングとして、点灯式イベント開催
～1月11日	—	点灯式から1月11日（土）までの約1ヶ月の期間における17時～20時まで毎日点灯

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名；				上溝さくら公園イルミネーション事業	
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	昨年度に引き続き、2度目の開催ながら、イルミネーション事業は地域に認知され始めており、点灯式には今年度も多くの来場者があった。地元の高校との連携・交流が一層活発となっており、高く評価できる。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施が適切になされており、支出についても過剰な点は見られなかった。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	事業の企画や周知、運営に至るまで、会員を中心に主体的に事業が実施されており、自立に向けて今後の展望も計画している様子がうかがえた。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	地域の高校生や協力団体と密に連携して準備や運営を行ったことで、地域の連携する力の向上に繋がった。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本事業は、重点的な取り組みである「商業振興によるにぎわいづくり」、「文化が薫り、誇りを持てるまちづくり」に該当する事業といえる。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

上溝地区「高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業」

高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業実行委員会

3年目

1 背景と目的

少子高齢化、核家族化に伴い、身近に頼る人がいない高齢者が増加。そうした高齢者が緊急事態や不自由な状態に陥るときもあり、地域では対応に苦慮している状況があった。そんな中、上溝地区全体で高齢者を支える仕組みづくりとして「高齢者相談つなぎの家」がスタート。活動する中で、近年の共生社会の流れもあり、緊急な事態や不自由な状態、困った時に相談できる場所を必要としている人は、高齢だけではないとの意見があり、今年度より上溝地区の全ての人が相談できるものとして事業の見直しを図った。

2 内容

○自治会長や民生委員、老人会役員、地区社協役員の家、地域内店舗などに事業看板プレート进行掲示。掲示を見た相談者を、民生委員や地域包括支援センター等の適切な相談窓口につなげることで、地域住民の困りごとや悩みの解決を図る取組み。

総事業費：484,048円

うち交付金額：484,000円

3 成果と今後の展望

○困りごとを相談できる対象者を、すべての地域住民とすることになり、プレートの表題や団体名も見直しを行った。（プレート表題：高齢者相談つなぎの家→困りごと相談つなぎの家／団体名：高齢者の安全・安心を支える事業実行委員会→住民の安全・安心な暮らしを支える事業実行委員会）

○公民館まつりでの展示や専門家を招いた講座の開催により、事業を周知することができた。

○今回作成したプレートや活用ガイドを使い、さらに事業を地域に広め、協力者を増やしていきたい。



困りごと相談つなぎの家 活用ガイド

（参考）実施経過

実施日	参加人数	内 容
7月4日	13名	令和6年度 第1回実行委員会 (事業実施に関する意見交換、対象者の変更の決定)
9月6日	13名	令和6年度 第2回実行委員会 (今後の事業実施のについての検討)
11月6日	12名	令和6年度 第3回実行委員会 (今後の事業実施に向けて意見交換など)
12月11日	12名	令和6年度 第4回実行委員会 (今後の事業実施の説明や運営に関する意見交換など)
1月29日	11名	令和6年度 第5回実行委員会 (プレートシール、活用ガイドの案への意見交換など)
2月15日・16日	—	事業周知のため、「公民館まつり」にてパネル展示
2月27日	10名	令和6年度 第6階実行委員会 (プレートシール、活用ガイドの最終確認と現在の進捗状況と今後の予定の報告、3月16日の講座参加協力の依頼)
3月16日	40名	講座実施 講師：田園調布学園大学 村井祐一教授 《テーマ》『地域みんなが安心して暮らせる地域づくりのために』～住民だからできる支え合いや見守り活動～
3月末	—	プレートシール、活用ガイド配布開始

地域活性化事業交付金評価シート					
事業名； 高齢者の安全・安心な暮らしを支える事業					
No.	項目	内容	評価の視点	評価	コメント（項目毎の課題・改善すべき点や高評価となった理由など）
1	公共性	事業目的や内容の公共性	1 解決すべき地域課題（事業目的）は明確だったか。	○	本事業は、見守る側が見守られる側を大きな負担なく助けることができ、地域の困りごとや相談を解決の方向へ繋げることができるもので、大変評価できる仕組みである。 今後は、仕組みを周知し、看板プレートを掲示してくれる協力者をさらに増やし、支え合う輪を広げ、地域の見守る力を高めていただきたい。
			2 設定した事業目的は、地域のニーズにマッチしていたか。	○	
			3 第2条第2項（優先的な対象事業）の視点を取り入れた事業であったか。	○	
2	妥当性	事業内容や支出の妥当性	1 地域課題解決（事業目的達成）のための事業内容は妥当であったか。	○	設定した事業目的に合致した事業実施が適切になされており、支出についても過剰な点は見られなかった。
			2 支出は明瞭かつ妥当であったか。	○	
3	継続性・自立性	団体の自立性や事業の継続性、発展性	1 事業を継続・発展させていくのに必要な人材を有しているか。	○	事業の企画や周知、運営に至るまで、会員を中心に主体的に事業が実施されており、自立に向けて今後の展望も計画している様子がうかがえた。
			2 事業が主体的に実施されたか。	○	
			3 事業の継続に向けた自己資金の確保や事業資金調達など、自立に向けた取組が実施されたか。	○	
4	波及性・発展性	事業の発展や他の団体へ与える良い影響	1 他団体の活動を促すなど、良い波及効果を与えるような事業となったか。	○	本事業は地区の民生委員や社会福祉協議会とも連携しており、地域の困りごとに対してきめ細やかな相談ができる体制ができている。看板プレートを見て寄せられる相談への対応を重ねる中で、さらに連携できる機関を増やしてほしい。
			2 地域課題の解決に向けた新たな手法や新たな担い手を生み出すなど、事業の発展が見込まれるか。	○	
5	目標設定	目標達成度	1 設定した目標（地域課題の解決）を達成することができたか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
6	区独自の視点	事業の地域性や独自性	1 区別計画に掲げる目的に沿った内容であったか。	○	本項目の全ての評価の視点を満たしている。
			2 地域特性や地域資源を生かした事業であったか。	○	
			3 事業目標達成のために、独自の工夫が見られたか。	○	
〈各視点の評価〉 ◎：実施した事業が、評価の視点を満たしており、かつ、その内容が優れている。 ○：実施した事業が、評価の視点を満たしている。 ×：実施した事業が、評価の視点を満たしていない。			総合評価（A・B・C） B 〈総合評価の基準〉 A：B評価の基準を満たし、かつ、◎が複数つく場合 B：評価の視点全体を通じて×の項目がない、又は、×のついた項目も容易に改善しうる場合 C：×の項目があり、短期間での改善が困難と見込まれる場合		

令和 6 年度実施

中央区 地域活性化事業交付金 事業まとめ誌

発 行 令和 7 年 6 月

編 集

相模原市 中央区役所

相模原市中央区中央 2 丁目 1 1 番 1 5 号（市役所本館 1 階）

お問い合わせ先

中央 6 地区まちづくりセンター

電話 042-707-7049 F A X 042-757-2941